

ゴーヘッドズ 速報

Goaheads

第18号 平成20年 9月24日

勝敗のカギは四球

残念！悲願の1勝ならず・・・



9月23日神奈川区民秋季大会1回戦が、三ツ沢公園野球場にて、西菅田ライナースと行った。前日までの雨による、グランドコンディションが懸念されたが、我がチームの試合は、無事開催された。区民大会、悲願の1勝を目標に、牧野を先発に立て、今日のゲームは始まった。その牧野は、被安打は2、三振は11と素晴らしいピッチングであった。我がチームにおいては、松下の今期初ヒットを含め、安打は3、三振は5と相手を上回るように見える。しかし、その目を四球数に向けて見ると、相手先発投手が0だったのに対して、牧野は6個を与えてしまった。確かに三振は投手に取って、非常に魅力あるプレーである。が、野球は9人で行う。四球に対しては、メンバーは何の力も与えられない。牧野は言った「自分で出したランナーだから、何とか抑えなきゃ、と」この投手の心理は非常に分かるが、その反面力んでしまっただろうか？キャプテンは言った「相手投手は上手かったと！」「早い球を持っているが、その7割程度で、コース・制球にポイントを置いている。そして、ここぞという時に渾身の力を込めて、速球を投げてくる。現に私の2打席目、チャンスの場面で三振を取られた時の最終球は、今までに無い非常に伸びのあるボール球だった。その伸びと審判のストライクの広さを感じ、思わず手を出してしまった。後でビデオをみたところ、ボールで有ることは、間違いなかったが、その伸び・速さに手が出してしまったのである。キャプテンはこうも言う「草野球だから、四球は致し方ない、ただ1イニングに1個だと」今回はそれがたまたま出来ずに、ランナーが溜まったところで、安打が出てしまった。チームを代表し、マウンドに上がる場合はその辺を考え、野手を信じて、打たれる事を考えよう、その結果が、フィールドプレーヤーの出番を生み、結果アウトにする。相手が打ち損じる、走塁に失敗が発生するなど、次の展開に繋がるだろう！それが野球であり、野球は9人で行い、チームのプレーに繋がるであろう！打者においては、選球の目の差もあったかも知れない・・・